

Casa Watanabe これが本当のきっかけです（リストラ？編）

～個人的には割と面白い話とっておりましたのでいつか公開しようと考えていたのですが、流石に初めからこんなことを公言していれば、皆様に余計な先入観が入るかもしれないと心配になり伏せておりました。が、せっかくワインコンクールで素晴らしい賞を頂いたこともあり、そろそろ開示しても大丈夫かと公開に踏み切ります。いつか誰かの参考や励みになるのか？やはり印象良くないのか？さて、どうでしょうか？(笑)～

《前置き》

元々ワインに縁のない家庭で育ち、どちらかと言えば苦手感さえあった私がワインに興味を持ったのは、ちょうど西暦 2000 年、イタリア旅行中の出来事でのこと。これは既によくの方にお話ししていますし、マンガにも一部書いております。そしてワインにハマり、好きが高じてとうとうワイナリーを立ち上げ今に至る。それは確かに事実です。が、「表側」の誰に話しても構わない一面の事実ですね。

しかしそれだけでは簡単に現状は変わりません。人間そう簡単にそれまでの生活を一変できるものではないです。表側の他に「裏側」もあるのです。それらが噛み合っ初めて大きく動くのでしょうか。そんなお話だと思うのです。

《前職について》

当時は IT 企業に勤めていた、と書いておりますが、それは実は日立製作所。IT というより、日本を代表する総合電機の大企業の一つです。そこでソフトウェア開発をしていたわけです。自分で言うのも何ですが、まあまあ良い技術者だったと思いますよ。

(少なくともある時点までは。(笑)) 証券・銀行・各種コンサルなどに比べれば給与水準はやはり高く

はないと思いますが、とは言え製造業ではかなり良い (東日本大震災後移転したソフトウェア開発の拠点) 部類に入ると思います。その点に不満があるわけでもなく。ただ四半世紀もすれば流石にもう、入社当時ほどプログラム作成に興味はなく、もっと普遍的に誰にでも価値がある「食」の方に関心が移っていたと言うべきでしょう。そこまでは普通に「表」のお話です。



《キャリア・チャレンジ研修??》

で、勤続 26 年くらい経ったある日、上司から呼び出しです。そこまで忙しい時期ではなかったはずですが、わざわざ定時後の時間指定。何だろうと行って見て、渡されたの

がこの書類です。(日付の通り、もう10年近く前の話になります。)

まあ、平たく言えば、「リストラ」。

裏のお話の始まりです。

一応会社の研修類には目を通してしましたし、何これ？初めて見る名前？と思ったものです。で、上司からは、「この研修受けて来て欲しいんだよね。でもこの研修受けると何故か皆、会社辞めちゃうんだよね。」と言うかなり不穏な言葉。

その時はそれ以上の話も無く、「はあ？まあ、分かりました。」と引き下がりました。が、帰りの電車でググってみれば、ドーン！「それはリストラ研修であ〜る！」(呼び方にはバリエーションがありますが、キャリア何とか、と言えば大抵そうらしい。)
「ひどい会社では個室に閉じ込めて、お前に何が足りなかったか反省してレポートに纏めろ！なんて虐めてそれを研修と嘯くものであ〜る！」とか何とか酷いものがいっぱいヒット。。
膝が震えてきたことを覚えています。。

上長経由
渡邊 哲也 殿

2014年11月17日
IP 総務部人事教育 G

「キャリア・チャレンジ研修」受講のご案内

題記の件、この度貴殿におかれましては、下記研修に参加頂くこととなりました。この機会に自己のキャリアを振り返り、自らの強み、弱みを再認識され、今後のご自身のキャリア形成の一助とされることを期待致します。

記

1. 研修目的
自分を最大限活かすことができる働き方、自分のやりがいや働きがいを感じられる働き方を目指して、自分自身で主体的にキャリア形成を行う。
2. 研修日時
(1) 集合研修
自己振り返りパート：12月1日(月)～12月5日(金) 9:30～17:30
自己改革パート：12月8日(月)～12月12日(金) 9:30～17:30
(2) フォローアップ研修(集合研修受講後に詳細案内。)
本研修受講後、カウンセラーとの面談研修を中心とした「フォローアップ研修」を受講頂きます。
3. 研修講師、研修場所
ランスタッド㈱ 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート
(1階受付で入館手続き(ランスタッド研修受講)を実施し、8階研修室へお越し下さい。)

4. 研修内容		午前	午後
自己 期 望	1日目	研修目的と意識づけ	オフサイト・ミーティング、気づき整理
	2日目	過去のキャリアの振り返り	現状認識の必要性、新たな環境変化
	3日目	エゴグラムによる自己特性の理解	キャリアアンカーによる指向性の理解
	4日目	自己発揮のコミュニケーション①	自己発揮のコミュニケーション②
	5日目	キャリア活性化プランの作成	キャリア活性化プランの発表
改 革	6日目	自己改革テーマの明確化	当事者意識確立による自己改革の必要性
	7日目	ストレスマネジメントの理解と実際	本音の助言・苦言による相互啓発
	8日目	今後求められる能力と啓発分野①	今後求められる能力と啓発分野②
	9日目	新たなコミットメント宣言作成	新たなコミットメント宣言発表
	10日目	アセスメントフィードバック	人間力強化

5. 旅費取扱い
費用負担先：各部負担
宿泊が必要な場合は、各自手配願います。

以上

本件担当：IP 総務部人事教育 G 大河原 (712-27689)

(研修参加の指示)

《幼〇戦記》

「幼〇戦記」というライトノベル、アニメにもなった作品があります。主人公の前世、とある日本企業で働く性格の悪い人事課長が、デキのよくない社員にやらせようとしたリストラ研修のテキストが出てくるシーンがあります。原作には特に記述はありませんが、アニメでは「キャリアサポートブック」としっかり書いてあるではありませんか！日立では「キャリア・チャレンジ研修」、実際に研修を行ったランスタッド(オランダが本社の総合人材サービス会社。)のテキストでは「ニュー キャリア ハンドブック」でした。この辺り知っているスタッフがやってくれたらいいです。グジョブ！別に笑って良いところではありませんが、思わず笑ってしまいました。まあ、私にもそのくらいの権利はあるでしょう。きっと。(笑)

《実はメンタル、ある意味問題行動？(笑)》

思い当たる節もあるので。実は私、メンタル経験者。無茶なプロジェクトの連続で睡眠不足は当たり前。じわじわ心身すり減らし。(この頃の食事をおろそかにした生活の反省が、今につながる訳なのです。)入社当初は大型計算機のプログラムでしたが、そのうちビジネスソフトの多くがWindowsで動く時代へ。それはそれで面白かったのですが、これってコロコロ仕様が変わっていい加減疲れてきたこともあります。で、とある酷いトラブルプロジェクト以降は正直あまり作ることに関心は無くなっていました。

しかしプログラム開発自体への興味が薄れた頃には、インドのソフトウェア会社への発注での開発が増え、これは考え方、感じ方が違う人たちにどう伝えるかが案外楽しくやりがいもあったのです。が、リーマンショックの煽りでそのプロジェクトさえ消滅。その発注先の会社にもう今後は発注できないことを伝えてどっと疲れを感じたものです。

その後はほぼ惰性で仕事をしていたかもしれません。その頃、特に体に不調はないつもりでしたが、いつでも怠さが残り、やる気がでない毎日。そんなある日、人間ドックで採血した直後に視界がブラックアウト。気がつけばベッドの上。一体何が起こった？と思ったあたりから健康状態に不安を持ちました。あまり気にしていませんでしたが、実はかなり前からとにかく胃がムカついて気分が悪い日が続いていたのです。何度か検査しても原因不明。そんな感じで約半年。最後にかなり大きな総合病院で検査したのですがやはり原因不明。その時の先生からは、心療内科か精神科をお勧めします、とのコメントでした。

で、まあ、とある精神科に行ってみたのですが、あっさり、「はい、あなたはうつ病です。」なんて感じ。それから闘病生活？の始まり。薬をもらえば、副作用の説明に吐き気！？いや、そもそもいつまでも吐き気が続くから来たんですけど？と疑いながらも抗うつ剤にも興味がありましたし、飲んでみたら。いっそう気分が悪くなり本格的にダウン。不快感で本当に動けないのです。主治医に「何これ！？」と不満をぶつければ「ごめん、ごめん、これは合わなかったみたいだね。大丈夫、いろんな薬があるから、どれか合うよ。」と言う軽い感じ。大丈夫かな、と疑いながらも次の薬を試せば、何とめっちゃめっちゃ重かった体が軽く感じるではありませんか！ってことは、やはりこの怠さはうつ症状ってことか、と納得する面もあり。しばらく休業して復帰。それからは無理はしないことが優先です。(休職では無く、単に自主的な休業程度です。で、行ってもすぐ休んだり。この辺りがかえって自己管理能力不足と判断されたようです。)

そんなこんなで良いものを作るよりも、従業員(何より自分)の健康を損なわないことを主眼に、無茶をしないで済むように計画を下方修正しようとする傾向が見え隠れ。私自身の勤務時間も激減です。そりゃ会社から見れば気に入らないところもいっぱいでしょう。

※まあ、個人的には残業しなかっただけのことですけど。ちなみに無理しない為に開

発量を抑え込んで、今回はここまでやるけど、こっちの機能は次バージョンで！と現場意見としてまとめた頃に上級管理職がやって来て、「君たち何やってるの！？こんなものじゃダメでしょ！」とひっくり返されることが多かったですね。で、「あー、今回のバージョンもきっと地獄だあ。。」なんてことになるのです。うん、確かに問題行動かも。(笑)

でも、まあ、流石に優良企業、こちらの症状が本格的に悪そうな間は面倒見も良かったと思います。が、もう大丈夫と思ったのか、もうこれ以上良くなる見込みはないと思ったのか、そうなればリストラ候補になるわけですね。

くっそう！と思う反面、来るべきものが来たか、という気持ちもやはりあったのです。

《そして研修へ》

研修当日、一緒に研修を受ける全社から選りすぐりの劣等生？たちと出会いました。皆それぞれの職場で浮くなり上司に睨まれるなり何か理由があるのでしょうかけれど、全員優秀な素晴らしい仲間でした。(今でも彼らとは交流が続いています。)

心配していた研修も、流石は日立&ランスタッドと思わせる素晴らしいものでした。「本来自分に合った職業は何なのか？」「職場で皆と打ち解けるにはどんな振る舞いであるべきなのか？」など、わざわざ50歳近くになって受けたかと言えば微妙でも、新入社員の頃に受けていたら最高だったと思える内容であったことは確かです。まあ、一応早期の転職を狙った研修ですので、「本来自分に合った職業」のあたりの掘り下げは弱かったと思いますが、それ以外は非の打ち所はなかったと思います。



(研修テキスト表紙)

《人間万事、塞翁が馬》

研修にはテキストがあって、テキストを輪読する機会も何度かありましたが、私が最初に読まれたページがなんと、「人間万事塞翁が馬」。当時は、「あー、こんなタイミングで何てもの読ませてくれるんだー。」と思ったものです。が、現実はわからないもの。正にそんなことになっちゃいましたね。笑うしかありません。

ちなみに世の中には「辻占」と呼ばれるものがあります。そこの曲がり角から来た人が、何を話しているか(とか、どんな服装、職業、性別かなど)で吉凶を占うヤツ。どうでもいいのだけれど、そんなものの一種かも、と思いましたよ。(笑)

しかしここで、会社の本音は研修所職員から聞かされるわけです。「もう君たちを仲間とは思っていない。」「会社に残っても構わないが、その時君たちに責任ある仕事を任せるとつもりはない。給与もそれに応じた水準になる。」「しかし我々はそれを望んでいない。外の世界に活路を見出して欲しい。」って感じです。まあ、この「外部の人に言わせる。」点と「会社に残っても構わない。」というあたりがミソですね。リストラ(会社都合)と言うか言わないかの境になりそうなポイントですから。

最終日、研修の感想を言ってくれ、とのことでしたので私が言ったのは次のようなことでした。「これから起こるあれこれを考えなければ、実に楽しく有意義な研修でした。」と。講師の代表が大笑いしていたことを覚えています。ここでそんなことを言ったヤツは初めてだ、と。(いや、こっちは普通に本音ですけど。)

しかし、それで直ぐに会社を辞める決心がつくわけでもなく。アフターフォローという形で研修所の方と面談が続きます。

《そして退職へ》

その頃かな？上司からはあれこれと裏話を聞かされます。曰く「結局予算なんだよね。」「早期退職って、退職金の上乗せもいるでしょ、こんな研修をやればお金かかるよね。」「当然その予算必要だよ。」「毎年、本社人事でそんな計算するんだよね。今年は何人辞めるはずだから、幾ら必要かって。」「でもなかなか予算通りにならないから、結局各事業部に割り振られるんだよね。」「ここではボクが最年少だし、押し付けられちゃったんだよね。」「結局この会社って、50歳では部長になってないと残してくれないんだよね。」なんて。

まあまあ、どこまで本当か分かりませんが、ただただ気持ちよく辞めてもらうための方便かもしれません。でも、まあ、ありそうな話だなあ、と感じてしまったわけで。ちなみにこの上司、私よりもかなり年下で、それはもうめっちゃ優秀だったのです。出会った時はどちらも課長職で、そこまで差があるとは思っていなかったのですが。考え方がすっきりしていて、上の巻き込み方が上手くて、ちょっと異次元なツッコミが多くて。こう言うタイプが出世する世界に私の居場所はやっぱりないよなあ、など感じたものです。こんな人に引導を渡してもらえれば、納得しやすくて良かったのでしょうか。

そんなこんなで退職へ。何にしても「お前はいらん！」と言っているところにも良いことはありません。退職の意思を伝えたら、上司も人事もほっとして喜んでおりました。そんなものでしょう。とにかく会社の人員は上司も人事も決して辞めて欲しいとは言わず。そこは徹底していました。世間体を気にする会社ですので、社員をリストラし

ている、とは言われぬように、会社側の人は絶対にその一言は言わないようにしていたようです。ですので、公式記録では、あくまでも「円満な自主退職」。まあ、それはそれでいいか。一生懸命自分の役割を全うした彼らに不満は少しもありません。賛辞と共に、結果としてはむしろ感謝したいくらいです。

(ただ一人、会社に週1日来ていた精神科の嘱託医だけは頂けません。これが何かロクでもない意見を言ったのではないかと勘繰っています。医者としての本分より、会社側の人間としてこちらを観察・監視する感じが強く気分が悪くなったものです。本来の役割を忘れているとしか思えませんでした。ちなみに会社常駐の内科の産業医の方々は良い方ばかりでしたよ。)

《リストラ・早期退職事情?》

日本企業も普通にリストラ、早期退職勧告を行うようになってもう長いですが、日立でもかなり大規模にやりました。私が所属していた「部」はかなり大規模でしたが、期末の集会で私が退職のあいさつをした時、もう2名の課長が同時に辞めました。あれ?この人達も?って感じでしたね。(彼らは研修なしです。)確か私が辞めた少し後にも結構大量にあったはずですが。(記録していないのでうろ覚えですが。)

その後経団連の会長にもなった故中西会長が社長になった頃からかなり増えていたとの話も聞いております。2019年に経団連会長として「経済界は終身雇用なんてもう守れない」と、(この時は流石に神妙な顔つきで)発言していた方ですが、日立ではずっと前からその方針でやっていたわけで、この方の持論なのです。

ちなみに大量に早期退職者が出るタイミングでは私が受けたような手厚い研修はありません。その分退職金の上乗せが少し増えたようですが、私の場合は考えを整理する時間になりましたので、研修があつて良かったと思います。

これからの時代、本当のところ自分は何がしたいのか、何ができるのか、そのためのスキルは十分なのか?常に考えておかないと会社員は務まりません。

ところで、日本の労働市場も企業先行で自在にリストラ、早期退職勧告を行うようになったのですが、その後労働者側の意識も流石にやっとな追いついたようで、近頃は「静かな退職」なんて言葉もあるそうです。今後はどうなるのでしょうか?

《そして転職活動へ》

だからと言って、すぐにワインを作ろう!と決心したわけではありません。どう考えても給与が激減することは分かっていたし、当時住んでいたこだわってリフォーム

したマンションを手放す決心もついておらず、都会の生活に未練もありました。

研修はそのまま転職斡旋サービスとなりました。ランスタッドがそのまま担当してくれます。そのあたりは手厚いですね。(まあ、これで転職すれば転職先から給与の何ヶ月分かがランスタッドや日立に流れる仕組みらしいですけど。詳しくは知りません。)

何社か中小の IT 企業の面接も受けたんですよ。それなりに面白そうなところを選びましたし、実際それなりに面白そうでした。

でも、やはり流石は日立、環境も整っておりましたし、人員の質も良い。それに比べて本当に私はここでがんばっていきけるのか？と疑問も感じたものです。でも人事担当とは楽しく会話していて、採用通知が来るかなあ、そうしたらどうしようかなあ、と思っていればことごとく不採用通知。まあ、私がそんな風を感じていることはお見通しなのでしょう。どうせこいつは会社のために粉骨砕身で働くヤツじゃないって。そりゃまあ、確かにそーだけ。 (笑)

《やはり再就職者って軽く見られてるんじゃない？》

この辺りで、少々腑に落ちなかった点をいくつか。

まず自主退職が勧められます。前職が会社都合での退職、となると再雇用時は何か問題があって辞めさせられたんだろ？と思われる可能性が高くなる、と言うわけです。確かに懲戒免職にするような重大トラブルがなくても、会社から見れば指示とズレたことをする人物だったり、明らかな能力不足という可能性もあります。が、今時普通に人員整理も多いですし、会社側に問題があるのでは？と言うケースも世間には散見されます。色々都合の悪いことを隠す目的もありそうなの？ うーむ？

ハローワークに登録して真面目に再就職活動していれば、雇用保険からしばらくの間はそれまでの給与の何分の一か支給されます。この期間は会社都合の方が長くなりますので、次の面も含めてこの辺りも考えるとやはり諸々気になるところです。

また、退職から再就職の間の期間は少しでも短くないといけません。長くなるとやる気がない、とみなされるとか。ですので、社会人大学に行ったり、全然別の世界でしばらく経験積んでステップアップを目指そう！なんて考えは毛嫌いされます。

結局、中途退職するような従業員は 2 流だし、そんな 2 流がさらに勉強してステップアップしようなんておこがましい！そんなやり方で 2 流ごときがこっちの給与を上回るなんて言ったらもう、嫉妬で気が狂いそう！こちらは毎日毎日働いているのに、途中優雅に過ごしてステップアップだあ？ふざけんなよ！なんて言う方がいらっ

しゃるようです。で、もっと安い給与で働け！何てドロドロした情念がこの界限には渦巻いている気がしました。だから転職でステップアップして給与が上がるなんてことが滅多にない。そんな感じに転職に障壁があるから、少々条件が悪いと思ってもほとんどの方は簡単には辞めません。結果、どこの会社も給与アップには消極的になります。

こんなところにも日本の給与が上がらなかった理由がありそうな気がするのですよね。(ヘッドハンティングとか、根本的にスキルが全ての分野であるとか、思いっきり人手不足の中小企業が対象でしたらまた違うのですが。)

何だか全企業が結託していると言うか、日本的に「暗黙に協調」してやっていると言う感じがするのですけれど？経済学者が議論することがない転職の現状。

どう思いますか？経験者の皆さま？

《転職》

そんなことをしていたある日、とんでもない腰痛で動けなくなったのです。ある晩、家内が不在(確か当時やっていた合唱のグループの練習でちょっと遠方に出かけていた。)の時に DVD で映画か何かを見ながら一人で食事をしていたのですが、食べ終わり DVD も見終わって、片付けに立ち上がろうとすれば、あれ？動けない？無理に動けば腰に激痛。。それでもその日は何とか動いて片付けて、帰ってきた家内に呆れられながら寝たのですが、翌日からは本格的に動けない。丸 1 週間は動けず、2 週間目から少しは外出もできるくらいになりましたが、まだ問題。当時は横浜の西外れの方に住んでいましたが、就職活動はやはり東京なのです。電車で 1 時間強。ずっと座っていれば何とかできますが、そんな幸運普通はあり得ません。とりあえず吊り革に掴まって 1 時間耐えられるまで自宅待機。結局 1 ヶ月くらいかかりました。

その間あれこれ本を読んだり、ネットで調べたり。。これからの人生、何をしたいのかじっくり考える機会になりました。これがかえて良かったと思います。

《腰痛》

実はかなりの腰痛持ちです。(笑) 30 台半ば頃、ある日突然、特に前兆も無く腰のあたりにピシッと衝撃が走り、一歩歩くだけで激痛が響く状態になったのです。この時は知り合いが紹介してくれた接骨院(保険適用！)に行き数回の受診で何とか治まりました。が、その後も定期的に何か起こったものです。

そんな感じで、その後も何名かの整体師の方々のお世話になってきました。そのあたりの話も図解付きで説明すれば、もう小冊子ができてしまいます。(笑)

その腰痛が人生見直しのきっかけを作ることになろうとは！そしてこんなメモを纏めようかと言う今、現在診て頂いている整体師の指導で今度こそその腰痛を抜本的に解決できそうな予感が！？

まるでどこかのエッセスピリチュアルのお話のように、こんなものにも役割があって、その役割も完全に終わったら。。ということですかね？(笑)

実際問題として言えば、ある時ある事象があれば、その後のすべてはその事象を前提にしております。どうしてこうなった？と紐解けば、その時は些細でどうでも良いと思ったことが、案外重要に思えることもあるわけです。これを称して「意味があった」になるのでしょうか。それを全部ひっくるめれば、「すべては必然」ですかね？

で、その間に、やはりワイン作りを目指そう！と考え直すことになりました。今の転職活動を続けて良いのか悪いのか？と考えるうち、いわゆる終活的な発想で、あと何をすれば満足して終われるか？のように考え始めました。とにかく無茶でもなんでもやりたいことをやってみようかと。そもそも再就職面接も案外うまくいかないもの、新しいこと始めた方がいいんじゃないか？この先はきっとその方が良い！と考えが変わったのです。実のところ、もうかなり前から既に「食」に、特に「食をより楽しむためのワイン」へ興味移っており、やりたいのにやらない方向で考えていたのは、ただ不安のため、なのです。もうすべて切り替えることにしました。

そうして日立&ランスタッドが準備していた就職支援サービスを断って普通にハローワークへ、と言うわけです。

《メンタルと栄養の関係》

ところで、このころメンタル関連の書籍も読んでいます。メンタルはストレスだ、対人関係だ、とよく言いますが、実は単なる物質的な問題でもあります。脳内伝達物質の不足・過剰などのバランスが影響しているのです。要するに、ストレスそのものというよりも、ストレスにより無駄にこれらの物質を消費してバランスが崩れると考えれば良いでしょう。ということで、こんなところにもバランスの良い食事の大切さが現れるのです。(消費したって、その分補給できていれば良いのです。)

えー？という方は、精神科で処方される抗うつ剤(様々な物質の塊です。)を考えてください。ちょっとした薬で簡単に気分も変わります。逆に間違った薬を処方すれば、案外簡単に脳は壊れます。私も初回ともう一回合わない薬で動けなくなったものです。安易に飲まされたりしないように気をつけましょうね。

ところで、ガ○ダムというアニメに強化人間と言うものが出てきました。(この種の強化された人間は妙にポジティブになって、概ねあまり良くない最後を迎えますが。)いくつかの薬を飲んでいる時にそんな気分もわかってきました。なるほど、あれってこういうことだったのかーと。(笑) 変なところで変な知見が広がります。

※もっともこれも1つの原因で、近頃はとあるウイルスが関係しているなど研究も進んでいるようです。

《ハローワーク、そして今》

ワイナリーの求人ってどうやって見つけられればいいんだ!?!と、とりあえずハローワークに行ってみました。しかしやはり求人は少ない。たまたま見つかっても人数枠が少ないので、応募しても既に決まっていたり。

これでは北海道から順番に気になるワイナリーを訪問して回ってみるくらい考えないとダメなのでは?と心配になったものです。

そんなところで私でも就職できる条件の求人を見つけれられた私はやはり運が良いですし、その後もあれこれのトラブルの結果ではあり

ますが、その当時は思ってもいなかったことに自分のワイナリーを立ち上げることになるとは!「運が良い」を通り越してもはや「偶然とは恐ろしい」の領域!?!という気がします。もういっそ、あれやこれやが積み重なった結果、やはり「すべては必然」と言うべきでしょうか?



(横浜のハローワーク)

そこから更に、いつでも頓挫しそうな危機に陥りながらも何とかここまで。(何しろコロナ創業。「コロナサバイバル編」の通りです。)やはり運が良かったことは確かでしょう。もはや運だけで生き抜いて来たと言っても過言ではありませんね。(笑。。まあ、本当に運が良ければあんな意味の分からないダメダメ業者に引っかかってコロナ創業にずれ込む訳も無いのですが、それでも何とか生き延びていられるくらいには幸運なのです!)

《ああ、運の女神よ!》

カルミナ・ブラーナという歌曲(世俗カンタータ)があります。ドイツのある修道院で見つかった、中世にそこを訪れた旅行者がラテン語で書いた諸々(立派な詩から書き殴った落書きのようなメモまで)、を歌詞にした面白い歌です。

「ああ、運の女神よ！（オー、フォルトゥーナー！）」で始まるアレ。TV番組でも時々使われていたと思います。

「ああ、運の女神よ！」はその第一曲。歌詞の内容を簡単に説明すると、「運の女神様は時々慈悲深い綺麗な長髪（運に恵まれたい者は、その髪に命綱にしがみつくように掴まる。）だが、そうできることは滅多になく、大抵は無慈悲な、（どこにも掴まる余地がない）ツルッ禿げだ！」なんてことを言っています。

これこそ自分の運！しかも手が届く！と思った瞬間は大切にしましょう。（笑）

ちなみにこの歌曲の中で私が一番好きな曲は、「酒場に私がいるときは（イン タベルナ クアンド スムス）」です！ 誰もかれもが飲むのです！皆飲みましょう！

《まとめ》

まあ、こんな感じです。理想を求めて未体験の世界に飛び込んだ！という素晴らしい話だけを期待していた方は幻滅するかもしれませんが、案外、今の世の中少しは励みになる方もいらっしゃる気もしますし、そうであれば嬉しい限りです。

と言って、始めからこんな話を公言していれば、「リストラされてワイナリー始めた変なヤツがいるらしいぜ？」なんて要約されて、「なんだ？その人生舐めたヤツは！？」と言われかねないかな、と。（笑）

もちろんそんな簡単な話ではありませんし、ワインでそれなりには評価して頂けた後でないと言ひ難いとは思っていたわけなのです。

何はともあれ、やはりこんな形でも無理やり背中を押されなければ（ほとんど思いつき蹴られてますが(笑)）なかなか全く別の仕事をしようとはしないでしょう。多分私にもそこまではできず、そしてもしもそのまま仕事を続けて退職を迎えれば、いわゆる「産業廃棄物」状態であった可能性が高いのでは、と思います。

そうなることに比べれば、しみじみ運が良かったのかもしれないと思います。それもまだ新しいことをやればできるくらいの歳、でも早すぎても資金が無いので、そこそこ退職金が出るくらい、なんていう絶妙なタイミング！ 更には、慌てて次の仕事につかずじっくり考える時間が、これも半ば強制的に与えられたこと。

お陰で全く別の人生を試すこともできて、人生2通り楽しめているお得感があります。ま、まだまだこの先どうなるか分かりませんが。

決して万人にお勧めできるコースではないですけど。逆にもっと行動力のある方でしたら、計画的に2重3重に楽しい人生を送られるのじゃないかな。

では、その後のお話は、また機会がありましたら！

(山梨に来て初めて車を運転すればあっさり自損事故で中古車大破、醸造タンクから転落して踵を骨折、と思えば次は自宅階段で転倒して眼底骨折。。いつでも経済的危機の連続で眠れなかったり。。日立勤続27年の停滞の間には考えられなかったようなあれこれの数々。。ってこう書くとほとんど悪いことばかりのような？うーむ？ まあ、人生なかなか飽きさせてもらえないことだけは確かなようです。(笑))